

第一号

# S T K 会報

発行所  
香川県普通寺市  
金蔵寺町 1298-1  
080-2990-6485

2012. 9/30

## 「大きくな〜れ」 四国新聞掲載



キジハタ稚魚千匹  
安田小児童ら放流  
小豆島・坂手沖  
小豆島町の坂手沖でこの

ほど、安田小学校の児童や保護者ら約50人が参加してキジハタの稚魚約千匹を放流した。漁業資源の確保と子どもたちへの学習機会の提供を目的に、香川、岡山両県の釣り船業者やプレジャーボート団体でつくる「瀬戸内遊漁船釣り団体協議会」(福本優会長)が実施。小豆島海上保安署と内海漁協が協力した。子どもたちは、巡視船「きよづき」に乗船し、バケツに入った体長約5センチの稚魚を大海原へ放流、「大きくな〜って帰ってきてね」と声をかけていた。この後、約1時間半の体験航海も行われ、海上からの風景に歓声を上げたり、放水訓練を見学するなどした。



瀬戸内遊漁船釣り団体協議会(S T K)では年三回の放流事業が行われます。今年度は高松沖、小豆島坂手沖、岡山宇野沖でのキジハタとマダイの放流が行われました。四国新聞にも取り上げられ報道されました。

## 「今年度前半期事業概要」

「瀬戸内遊漁船釣り団体協議会」とは平成二十三年十二月十二日に遊漁船を職業とした者、個人で有するプレジャーボートが漁業者としてのトラブルを避け皆で海を守る会として発足しました。多くの方の暖かい眼差しで見守り協力していただく事ができました。

今年度、二年目も半期を終えて目標である二十五年度のN P O法人への参入準備も進んでいます。二十四年度前半期の概要を取りまとめました。

### 平成二十四年度

- 四月十六日 高松テルサ会議室において第一回総会を開催する。
- 六月二十四日 瀬戸マリーナでタイラバ講習会。
- 八月一日 キス釣り教室は台風のため中止。
- 九月二十日 第一回高松沖放流事業を行う。
- 九月二十三日

- 九月四日 第二回小豆島沖放流事業を行う。
- 第三回岡山地区放流事業を行う。

## タイラバ講習会

六月二十四日瀬戸マリーナ・S T K主催のタイラバ講習会が開かれた。インストラクター(シマノ)の佐々木洋三氏を招き講演、恵丸船長の講習、海上講習が行われS T Kスタッフは初めての行事。緊張の中、賛助会員に三十五名の受講者のお世話をお願いした。



2012/06/24 瀬戸マリーナタイラバ講習会



恵優丸船長の講習

佐々木洋三氏の講演



瀬戸マリーナ実釣・講習会  
世界の中心でタイを叫ぶ!?

佐々木洋三

私がマダイのラバージギングをはじめて誌面で紹介したのは、2005年9月(ソルトワールド誌54号)のことであった。あれから早7年、正直に言ってこれほどのブームが到来するとは想像もしていなかった。さすが百魚の王と称される所以である。  
香川・岡山両県に挟まれた海域はマダイの魚影がすこぶる濃い。

大小様々な島々が複雑な潮流を生み出し、豊富なプランクトンは一級の漁場を形成している。だから、タイラバ釣りを掲げる遊漁船の数も日本一だ。それぞれの船長さんが切磋琢磨しながら真鯛釣りを探求するので、タイラバはますます進化するし、レベルの高い釣技が磨かれている。  
また、100人近い規模のタイラバ大会が開催されるのは、全国でも例がない。だから、瀬戸内海は日本一、いや世界一タイラバ釣りが盛ん

なところといっても過言ではないだろう。

昨年発足したSTKの皆さんの熱意と努力で、安心して遊漁を楽しめる環境づくりに取り組んでいただいていことも、本当に頭が下がる思いである。

常識を覆す

浅場は即アワセ!!

講習会では、そうした新しい攻略法の中でも、最近話題の浅場のマダイ攻略法を中心にお話をさせていただいた。ワンドになったサーフ、それも水深10<sup>メートル</sup>にも満たないところで70cmオーバーのマダイを釣る。それも12月に水深6<sup>メートル</sup>の浅場で釣ったというのだから、冬は深場を釣れ、という常識は疑ってかかる必要があるようだ。

ベイトタックルによる縦の釣りとは違い、キャストを繰り返す攻めの釣り方は、従来のタイラバ釣りとアワセ方も異なる。垂直方向にタイラバを追いかけてくる場合は、マダイがタイラバをくわえ込み、下を向くまでひたすら巻き続けるが、キャスト

ティングによる横向きのリトリートでは、即アワセのほうが、バラシが少ない。ロッドを締め込むのを待つてから、アワセるといふ常識もキヤスティング釣法にはあてはまらないのである。

一本バリ釣法!!

さらに、これまで常識とされてきた2本バリのシステムもこれだけ実釣データが揃うとどうも怪しいと思うようになってきた。ここ一年間、私はすべて1本バリでタイラバ釣行を重ねてきたが、バラシも少なく、釣果も向上している。

まず、2本バリと比べ、ネクタイ絡みが減少する。ネクタイがよく動くのでアピールも高い。2本バリよりも1本バリのほうが当然のことながらフッキングパワーが強い。ハリ外しが楽。他人の仕掛けとオマトリしたときも、タモ網に絡んだときも外しやすい...など、いいことづくめ。鳴門の本職の漁師さんが1本バリで釣られていることをみても、タイラバは2本バリというのは、じつは釣り人の非常識という気がし

てならない。  
 STKの皆様の熱心な取り組みで、実証的にマダイの釣りが研鑽され、タックルが磨かれ、日本発の味わいのある釣り文化がここ瀬戸内海から育ち、発展することを願ってやまない。

## 放流事業

### 第一回放流

高松沖にて水産試験場の船に坂本本場長が同乗し優勝丸に伴走してマダイ・キジハタの放流が行われました。 九月二十日

水産試験場船 坂本場長ら



優勝丸



### 第二回放流

小豆島坂手沖で行われました。小豆島では小学生や父兄を招き各関係機関から多大な協力の元、坂手海上保安署（岡周史署長）の巡視艇で盛大なセレモニーと共に稚魚放流と巡視艇体験航海等が行われ青少年育成の情操教育に成ると大変喜ばれました。 九月二十三日



城丸も巡視艇と伴走



巡視艇に乗船する児童と父兄



保安署職員からおみやげに記念品をもらう児童ら



きよづき船長  
 内海漁協森理事

第三回放流

岡山県宇野沖で行われました。

十月四日



岡山での放流は第6管区玉野海上保安部交通課から山崎様に来て頂き松本釣船2からはお客様に参加して頂き安全協会からは尾崎様に協力をして頂きました。また、岡山県庁水産課には放流魚場の関係漁協との調整等で大変お世話に成りました。尾崎様や山崎様の話では来年は岡山も一緒に共同放流も考えたいとの話もあり両県の放流事業がますます拡大するものと期待しています。

尾崎・山崎 両氏



お知らせ

香川県水産試験場ではマダイの年齢解析をしました。頭部から耳石を取出し約一ヶ月をかけて82.5cmのマダイを調べた結果20年の歳月を生きしたものと解明しました。



(今年6月に釣上げた真鯛)

顕微鏡で見た耳石の年輪



取出された耳石



80センチオーバーの真鯛が釣れたら年齢を調べてみませんか？ お客様の釣果、自分の釣果で80センチオーバーであれば水産試験場で年齢解析をしていただきます。詳しくはSTK事務局まで。